あとがき

第 23 号環境科学年報（平成 12 年度版）をお届けします．多くの皆様から原稿を寄せて頂き，当初の予定通りに発刊できましたことお礼申し上げます．

この研究会も発足後，23 年もの年月が経過し，ややマンネリ化したり，停滞気味のこともありました．しかし，多くの会員の皆様から，学部の垣根を超えた環境科学の研究や教育仲間の集まりを大切にし，更なる活動の必要性を望む声が寄せられました．お陰様で，今年度は久しぶりに環境科学研究会主催の講演・研究会の開催も実現できました．年報 23 号も多分野の 17 篇の論文集として完成することができました．さらに，年報の会員名簿を見ていただきますとわかりますように，多くの新らしいメンバーにも参加いただけるようになりましたこと，会員諸兄のご支援に心から感謝申し上げます．

ところで，最近の環境問題の情勢は急激に変化を遂げ，環境と人間社会の関係に新しい秩序作りと価値を見直す時代に入ってきたように感じます．90 年代の地球環境問題から，比較的身近で分かりやすい生命や食料に関わる環境問題へと移り変わってきたためでしょうか．個別の具体的な環境問題を通して，人間社会と自然の関係の在り方を根源的に問い返すような状況となっています．“有明湾諫早干拓と海苔養殖”，“長野県田中知事の脱ダム宣言”などの混乱が象徴的かと思います．今後も，さらに多くの具体的な問題が，顕在化してくることは確実です．しかし，現在の科学技術がこれらの個々の問題に対して，正しい解決策をいつでも用意できるとは限らないと考えるのは小生だけでしょうか？

以上のような状況において，ますます環境科学に関する教育・研究が必要ですし，本研究会の役割も重要となってきているように思います．環境科学の教育・研究を志す者の情報交換や教育・研究業績の発表の場に留まらず，より望ましい環境と社会の創造に向けて，地域社会への情報発信，あるいは地域との連係を推進すべきという声もあります．これからの本研究会の役割，方向などについて，皆様からの忌憚のない活発なご意見やコメントを事務局宛お寄せ頂きたくお願い申します．

2000. 3. 20

星川　和俊（編集世話人・農学部）